

S-TEAM 教育推進事業 「STEAM」 推進プロジェクト
外部連携支援事業（学校活用型）実施報告書

学校名	北海道札幌東高等学校
実施日時	令和5年5月10日（水） 13:35～15:35
講師	（所属）なし（元北翔大学教授） （職・氏名）森 一生
実施概要	<p>1 ねらい 演劇の手法を活用して自分と価値観や考えの異なる他者と対話する演習を通して、各教科や「総合的な探究の時間」での探究的な学習において求められる課題設定の方法等について気づきや発見を得る。</p> <p>2 日程 13:35 講師紹介、演習開始 コミュニケーションとは何か 14:40 演劇の手法による対話の実践 探究的なものの見方・考え方と課題設定の方法に係る気づき・発見の促し 15:30 演習のまとめ、謝辞 15:35 終了</p> <p>3 講義、実習等の概要 (1) ワークショップの目的 (2) 社会の変化と私たちに求められている能力 (3) 教師や子どもたちを取り巻く世界を読み解く (4) 子どもの「自尊感情」「肯定感」といわれる学力 (5) 「共感」「協育」「響育」へ (6) 演劇がもつ表現、言葉の特性 (7) 演劇について考えようー演劇を成立させる「四つの要素」ー (8) 演劇活動の「こころ・からだ」 (9) Recreation とは (10) まとめ</p> <p>4 成果（生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等） 生徒や教員は、問いに対して唯一絶対の正解や、活動に対して明確な目的や内容あるいは確実な方法を求めたり、それらが明示されることに価値を置いたりする傾向が強いが、講師の導きにより、グループ内で価値観の異なる登場人物のセリフを群読したり、対話を通じて演者となつてある場面を創り上げたりする演劇ワークショップを通して、自分とは異なる考えを有する他者への理解や他者との協働の在り方について、気づきを得ることができた。 また、講師は、生徒や教員に対してあえて目標を伝えずにワークショ</p>

ップをしていることから、生徒や教員は、「どうセリフを読めば登場人物を演じることになるか」などについて、対話を重ねることにより、「情報の収集」としての対話、「まとめ・表現」としての対話など、コミュニケーションとしての対話の在り方を実践的に学んだ。

対話や協働について、言語を用いて知識として学ぶことと言語を用いず体験として学ぶこととは別ものであり、むしろ実践のなかで気づきを得ることによりコミュニケーション能力の向上が期待されることを経験的に学んだ。

